

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	校訓「質実剛健」・「自主創造」に掲げる精神を理解するとともに、多様な個性を尊び、未知なるものに挑戦できる人材の育成			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
授業、学校行事、部活動等、全ての教育活動を通じて、生徒が主体的に取り組む姿勢を育むことができた。生徒が安心して、明るく、楽しく、生き生きと学校生活を送る姿が学校の魅力化に大きく寄与した。引き続き「生徒個々が魅力を感じる授業」を実施するため、深い学びに繋がる授業に向けた授業改善に取り組む。「多様な個性」と「進取の校風」を尊び、生徒・教職員がともに真理を追究する雰囲気醸成していく。	「礼節」、「主体性」、「創造性」、「多様性を尊重する姿勢」を兼ね備えた生徒の育成を図る。	○授業、潤陵祭(文化祭)・大運動会等の生徒会行事及び部活動を充実させることにより、生徒の「礼節」、「主体性」、「創造性」及び「多様性を尊重する姿勢」を育成する。			
	言語環境を適切に整備し、人権教育を推進・充実することにより、生徒の人権意識を向上させる。	○人権に係る研修会を定期的に開催し、生徒及び職員の適切な言語環境を整備することにより、職員及び生徒の人権意識を向上させる。			
	生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、教員は深い学びに繋がる授業を実践することにより、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」の育成を図る。	○各教科のシラバスを整備し、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を向上させる。 ○全職員が「深い学びに繋がる問」を自己評価の項目に位置付け、年間を通して研鑽に取り組む。			
	授業と評価方法の改善により、指導と評価の一体化を図り、新たな時代が求める学力を育成する。	○各教科が「卒業時の到達目標」及び「学年終了時の到達目標」を適切に設定することにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、指導と評価の一体化を図る。 ○科学・情報プログラムを通して、AIを活用し課題解決を図ることができる能力を育成する。 ○産官学連携による本校独自の学問「いづか学・e-zuka学」を通して、本物に触れることを重視した探究活動や多彩な講師による講演会を実施し、自ら将来設計を行うキャリアプランニング力を育成する。			
	「嘉穂Dream Compass」を軸として、生徒の個性や能力を引き出し、生徒の第一希望進路の実現を図る。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	指導と評価の一体化の推進	「深い学びに繋がる問」の研究と授業改善を推進するために、教科到達目標の共有とシラバス作成に取り組む。	B	B	生徒が見直しをもって自学や授業、定期考査に取り組むことができるよう内容を具体的に提示する。考査や模試結果の分析を教科内で確実に実施し、シラバスの見直しと授業改善を促進させる。管理システムの条件設定や処理結果等について厳重なチェック体制を確立維持する。運用上の成果と課題を整理しながら端末の管理と使用状況の改善に取り組む。校務支援システムの利用を進め、活用拡大を図る。ICT支援員との連携強化と活用事例の周知拡大を進める。
	教育の情報化の推進	生徒、教員対象に学期ごとのアンケート等を実施し、一人一台端末の運用の改善を行う。	A		
		校務支援システムのマニュアルを改善・作成し、校務の効率化を進める。	B		
生徒指導部	規範意識の高揚と生徒の主体性の育成	全ての教育活動において教員及び生徒の言語環境を整え、生徒と教員の堅実な信頼関係を築く。	B	A	SNSをはじめ、生徒に言葉の重みを理解させ、互いに配慮できる態度を育てる。多様な生き方を尊重する態度場に応じた望ましい行動選択を継続する。潤陵祭や大運動会実行委員会を早期に立ち上げ、多くの生徒が企画運営に関わる取組を継続する。特に、公共の場において他者への理解や配慮ある言動をとらせる。面談やSCの充実を図り、職員間の情報共有のもとで保護者との連携を深める。公共物を大切に、という意識を醸成し、主体的な姿勢を育成したい。
	心身の健康づくりと安全な教育環境の整備	学級活動や生徒会活動を活性化することにより、多様性を認め、望ましい行動選択ができる態度を培う。	A		
		学校行事の企画・運営を生徒主体で行うことにより、創造力や実行力及び協調性の育成を図る。	A		
		温かく丁寧な教育活動の展開により、生徒の安定した情緒と自他共に大切にできる思いやりの心を育む。	B		
進路指導部	多様な個性の伸長と第一希望進路の実現	効果的な課外授業や進路別講座を実施することによって、学力向上を図る。	B	B	学習効果の高い演習について教科と研究を進め、授業の質を向上させる。HRでの体系的な進路指導を継続して行う。また、十分な時間の確保をする。就学支援・就職支援の適切な指導・支援を行い、経済的に進学を断念する生徒が生まれないようにする。課題発見力・課題解決力の育成と協働的な取組を推進する。大学や仕事に対しての興味・関心を高め、さらに深化させられるよう、企画の精査を行う。
		進路講演会やガイダンス、進路ホームルームを通して、高い志や目標を持たせる。	A		
	課題解決能力とキャリアプランニング力の育成	全職員が人権意識を持って進路指導を心掛け、就学支援・就職支援を適切に行う。	A		
		探究活動を通して、生徒の主体性・多様性を受容し、新しい価値を創造する力・協働力を育成する。	B		
研修部	「深い学びに繋がる問」と「開かれた学校」の推進	中学校の授業実践および外部講師による職員研修会を開き、授業改善を推進する。	A	A	研究授業及び教科内研修の充実を図る。授業アンケートの適時の実施と速やかな返却に努める。内容の充実を図り、授業力向上に資する公開授業とする。PTAの各委員会活動の内容の精選と充実を進める。各分掌における内容の充実を促進させるとともに手引の活用を進める。円滑な高校生活スタートに資する資料を作成、収集し活用する。
		授業評価アンケートを実施し、各教員が授業改善をより具体的に実行できるようにする。	B		
		定期的に授業公開を行い、地域や保護者等に生徒の姿や教育活動の実態を見てもらう。	A		
	PTAとの連携および中高接続の充実	PTAとの連絡・調整を密に行うことにより、組織や行事の改善を図る。	A		
第1学年	主体的・協働的に物事に取り組む生徒の育成	入学の手引の編集を各分掌との連携を図りながら、わかりやすい冊子を作る。	A	A	時間や空間を共有していること理解させ、丁寧な言葉で人間関係を構築させる。成果と課題を具体的に分析させることで、さらによりよい行動ができるように促す。修学旅行を通して、社会との繋がりを感じさせ、創造力や行動力を向上させる。時間厳守や授業規律、また登下校マナーや挨拶など生徒の主体性を更に向上させる。リーダーシップとフォローワーシップを確立し行事や部活動で下級生を牽引させる。自己実現に向けてより積極的な進路研究と学習および検定の取得に挑ませる。
		ホームルーム、授業等において「時を守り、場を清め、礼を尊ぶ」姿勢を身に付けさせ、他者を意識した行動ができるようにする。	B		
		「まずは挑戦してみる」雰囲気醸成し、学年行事や集会などを企画・運営させ、学年のつながりを築かせる。	A		
第2学年	次期リーダーと自己実現に向けて主体的に行動する生徒の育成	基本的な生活習慣を再確認させるとともに、ホームルーム等において多様な個性を尊重し自他を思いやる心を育成する。	A	A	学習意欲を向上させ、課外受講率を高め、目標達成のための努力を継続させる。実行委員による行事の運営を通して、主体的な行事の形を下級生に受け継がせる。自己判断力を育て、行事の運営、校則の遵守を主体的に行わせる。
		生徒会役員や部活動におけるリーダーを育成し、学校の核となり活躍できる生徒を育成する。	A		
		第一希望進路実現に向けて、計画的な学習や各種検定の積極的な取得および進路研究を行わせる。	B		
第3学年	高い進路目標を定め主体的に取り組む、多様性を尊重し集団に寄与する生徒の育成	学級、学年経営において学習指導と進路指導を連携させ、計画的・効果的な指導により深い学びを実践する。	B	A	演習、実験などを深化させ、深い学びを充実させる。ポスター発表会等での指導・助言を生かし、生徒の実力を向上させる。大学実習、科学施設訪問、理数講演会などを実施し、行事を充実させる。
		適切な支援により生徒主体の学校行事を成功させることにより、本校への愛校心を育てる。	A		
		生徒の自治活動を通してリーダー性を育み、成功体験・失敗体験を通して精神的な成長を促す。	A		
理数科	理数教育の充実と進路実現	生徒の学力を保障するために、3年間を通して、深い学びを取り入れた授業を充実させる。	A	A	コースが目指す生徒育成像を伝え、コースの魅力化を図っていく。予算等について再考し、実施できる方法を模索する。積極的に研修会に参加する。説明会の実施時期や内容を再検討し、中学生に魅力や特色を伝える。
		生徒の課題発見・解決能力を育成するために、大学の協力を仰ぎながら理数探究を充実させる。	A		
		生徒の進路意識を高めるために、理数科独自の行事(大学・企業訪問)を行う。	A		
武道・日本文化コース	授業・行事の充実、改善と積極的な広報活動	武日コース教育活動検討委員会による教育課程等の検討を行い、武日コースシラバスを改善する。	A	B	
		アスリートや著名人による講演会や研修会を実施する。	B		
		部活動における広報活動として地域や中学生との交流の場を設定する。	B		

学校関係者評価	
評価(総合)	項目ごとの評価
A	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
	学校関係者評価委員会からの意見
	B シラバスが生徒の学びの道しるべとなるようさらなる活用を進めてほしい。広報活動の重要性を踏まえ、戦略的に進め、充実を図られたい。
	A 生徒が主体となって行事をとり行うことができおり評価できる。
	A 他者と協働する力やコミュニケーション力のさらなる育成に励まされたい。
A 授業力向上に向け、さまざまな取組がなされており、効果があがっているようである。今後も継続されたい。	
A 集団生活における人間関係作りにより工夫が凝らされ、生徒の成長につながっている。	
A 中堅学年としての自覚を育む学年づくりが行われている。	
A 生徒が主体的に取り組むことができるよう適切かつ充実した支援が行われている。	
A 学習指導や研究の充実により生徒に高い学力と研究を深める力を育成することができている。	
A コースの特色に応じた教育活動が充実している。今後は一層の活性化を期待する。	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・教科の到達目標とシラバスを提示し、必要に応じて適宜改訂していくことで、生徒の実態にあった指導を行い、持続的に授業改善を行っていく。
- ・生徒の主体性をさらに伸ばす取組を学習や部活動、生徒会活動などの教育活動全体を通して推進していく。
- ・研究や探究活動が生徒の希望進路実現に資するものとなるよう、研究活動、探究活動をさらに充実させる。
- ・安心、安全な学校づくりのため、家庭との連携のもとで、生徒の状況把握に努め安心して学ぶことのできる環境をつくっていく。

評価項目以外のものに関する意見